

令和2年度事業報告〔概要版〕②

2. 第52回経済行政懇談会

【令和2年11月27日】

新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立環境の整備に向け、福山市、福山市議会、当所のトップが活発な意見交換を行った。

●当所からの発言概要

○景気観測調査では、5月総合DIが△51.4とリーマンショック時以来11年ぶりの△50超となった。

○「出張・海外渡航の制限」、「在宅勤務・テレワーク」などの経営課題が浮き彫りになった。

○11部会からのヒアリング結果を踏まえ、
・雇用調整助成金の特例措置延長について
・市内企業間でのビジネス・人材マッチング支援について
・支援策のWeb申請に対する支援窓口の措置について
・IoT化への支援について
などの要望について、今後行政と協議していきたい。

○福山市産業支援者連絡会議を通じて要望し実現した「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン―職場編―eラーニング」の周知・勧奨に注力する。



▲林会頭 ▲枝廣市長 ▲小川議長



▲福山市、福山市議会、当所のトップがコロナ禍対策、地域活性化等について意見交換

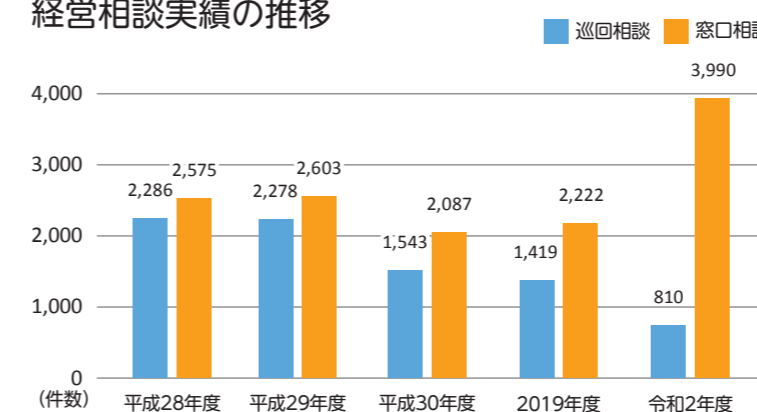
●福山市からの説明概要

- ・コロナ禍での事業者支援の取組について
- ・コロナ関連融資の独自利子補給について
- ・幹線道路の整備促進について

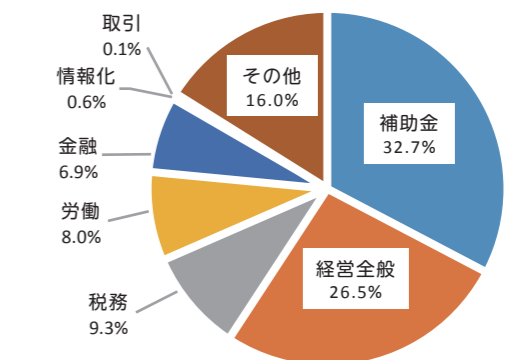
2. 中小・小規模企業の成長と経営力の強化

当所会員の大半を占める小規模事業者に対して、経営指導員が中心となり金融、税務、記帳、労務などの基本的な相談をはじめ、各種助成金・補助金の活用、経営計画策定、販路開拓、創業支援など、福山地域中小企業支援センターの専門家と連携し重層的・複合的な経営相談を実施した。また、昨年度に引続き新型コロナウイルス感染症に関する相談に注力した結果、窓口相談の件数は対前年度比約1.8倍に急増した。

経営相談実績の推移



窓口相談種別割合 (総相談件数：3,990件)



新型コロナウイルス感染症対策

●新型コロナウイルスに関する経営相談窓口

令和2年1月29日に設置し、影響を受ける中小・小規模事業者に対し支援施策などの情報提供を行うとともに、国・県・市等が次々と支援施策を創設するなか、申請相談などに丁寧に対応した。【令和2年度実績】相談件数 1,376件

【給付金・支援金等の相談実績】

給付金・支援金等	支援者数
持続化給付金	391
小規模事業者持続化補助金(一般型・コロナ特別対応型)	387
家賃支援給付金	123
雇用調整助成金	73
緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金	51
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金	11
中小企業等事業再構築促進事業補助金	10
IT導入補助金	9
広島県感染拡大防止協力支援金	85
広島県頑張る飲食店応援金	7
広島県テイクアウト・デリバリー参入促進事業助成金	5
広島県頑張る飲食店納入事業者応援金	4
福山市感染症対策設備導入支援事業補助金	19
福山市事業オンライン化支援事業補助金	17
福山市課題解決型経営基盤強化支援事業補助金	16
福山市テイクアウト・デリバリー参入応援事業補助金	5
第2次福山市感染症対策設備導入支援事業補助金	4



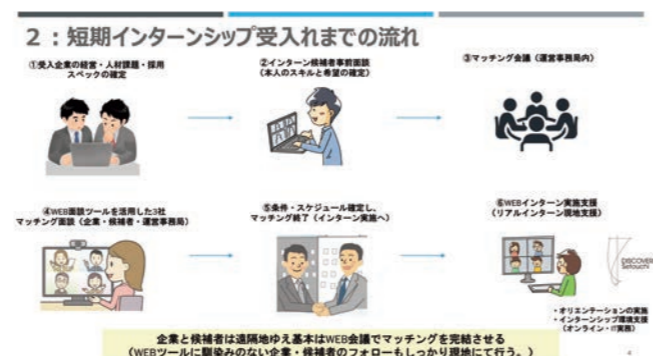
▲感染防止対策を施し、緊急事態宣言下でも相談対応

3. 人材確保について (「FUKUYAMAインターン」の創設)

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地方で働きたいと希望する人が増えているこの機会を捉え、地元企業の競争力を強化するため優秀な人材確保についての支援を要望。都市部で働く20歳代から50歳代以上のベテランも対象にした職業体験プログラム、「FUKUYAMAインターン」が創設された。



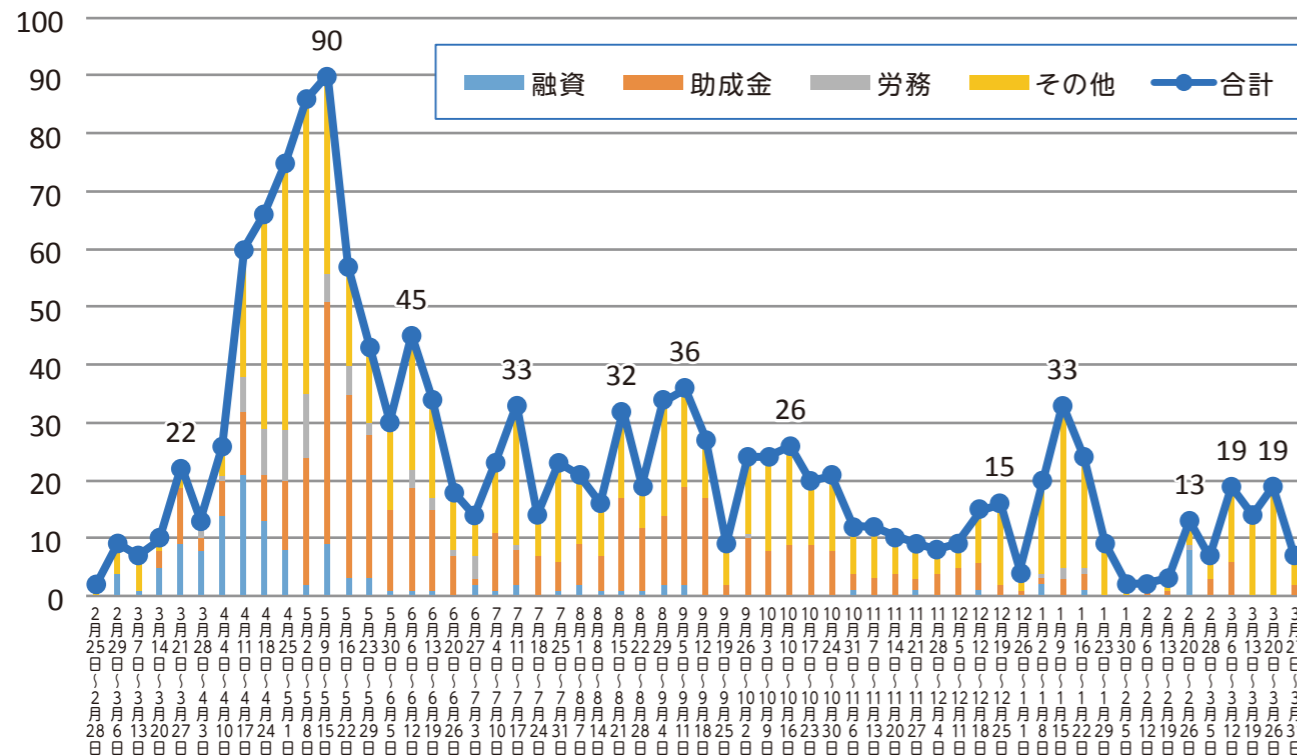
▲「FUKUYAMAインターン」のトップページ



▲実施フロー

令和2年度事業報告(概要版)③

【新型コロナウイルス感染症関連の相談件数の推移 令和2年1月29日～令和3年3月31日】



令和2年度事業報告〔概要版〕④

人手不足に対する取り組み

●企業と学生の交流事業「モグジョブ」

企業の採用担当者と学生の交流事業を開催。コロナ禍で一部はオンライン開催としたが、遠隔地からの参加も可能となり好評だった。市内2大学で開催し、参加延べ数は、事業所6社、大学生10名であった。



学食を食べながらの情報交換▶

●雇用シェアマッチング

(公財) 産業雇用安定センター広島事務所との協定に基づき、人材の送出企業と受入企業のマッチングを行い、在籍型出向制度等の推進により雇用のミスマッチの解消に取り組んだ。



マッチングのイメージ▶

● 広報活動

さまざまな媒体で、当所事業活動や企業経営に有益な各種情報の周知に努めた。記者会見では会頭による事業の方針説明や毎月実施する景気観測調査（DI調査）の発表、当所主要事業の告知・説明、会員事業所からの新製品等のPR（10社）などを行った。特に新型コロナウイルスに関する会員事業所の経営動向や当所の取組状況及び各種支援策について重点的に発表を行った。

【その他媒体活動】・月刊誌「商工ふくやま」 ・ホームページ・メールマガジン「FCCライナー」
・フェイスブック ・エフエムふくやま「ハロー！商工会議所」

【FCCIライナー】配信先 1,643件 「コロナ禍緊急対策臨時号」発行7回

〇〇=====〇〇

—<<<< FCC! ライナー臨時号>>>>—

令和3年（2021年）1月8日金曜日発行

<http://fcciliner.dreamlog.jp/>

〇〇=====〇〇

お知らせ◆
○「新型コロナウイルス感染に関する福山市長からのメッセージ」

市民・事業者の皆さまへ

1都3県に緊急事態宣言が発出されることとなりました。このままでは感染爆発が起きかねないとの危機感があるからです。

福山市でも、11月24日以降感染拡大が続き、2つの医療クラスターを含む10

◀「FCCIライナー」で定期的な情報発信に加え、コロナ禍関連などは臨時号を発行し、会員をサポート

所報「商工ふくやま」を一般書店
(啓文社ポートプラザ店)で販売
開始。県内初の取り組み。



●調査事業

地域経済の実態を把握するため、毎月、市内企業の景況感について、DI方式で調査し（「景気観測調査」、記者会見等で公表した。また、併せて、社会・経済情勢などの環境変化に応じた調査も適宜実施し、行政への意見活動などに活用した。

【令和2年度実績：調査協力企業数161社・回答率約90%】

3. 産業の発展と潜在力の強化

●**コロナ禍緊急対策事業**
（「福の山おたすけ事業」）

国・県・市の支援策が講じられる前の当所独自の緊急対策として、つぎの「福の山おたすけ事業」を実施した。

①「福の山おたすけ掲示板」を当所サイトに開設
(コーナー)

- ・「販売促進・マッチング」 掲載数 11事業所
- ・「食品ロス」 掲載数 8事業所
- ・「デリバリー・テイクアウト」 掲載数 50事業所
- ・「新型コロナウイルス感染症防止対策取り組み事業所紹介」 掲載数 20事業所

②「福の山おたすけチケット事業」の実施
活用事業所数 36事業所



▲当所ホームページに設置

【福の山おたすけチケット事業】



▲コロナ禍で苦しむ飲食店、小売店を支援

【中国新聞備後版への一面広告】



▲令和2年5月18日掲載

【新型コロナウイルス感染症防止対策取組み事業所紹介】



▲感染防止に取り組む事業所を紹介

●ビジネスマーケット備後2020 【開催日：令和3年3月3日】

対面での営業活動が制限されるなか、消毒液、アクリル板の設置、フェイスシールドの配布などの感染防止策を徹底し、さらに事前マッチング制を取り、効率的な面談・名刺交換会を開催。備後圏域連携協議会の協力もあり、備後圏域6市2町からの参加者も得、コロナ禍にあっても新たなビジネスチャンスを求める、意欲的な事業所から87事業所の参加があり201面談が行われた。参加者の6割が見積もりの提出や再面談の約束を取り付けるなど、withコロナの中での新たなビジネス交流事業を展開した。



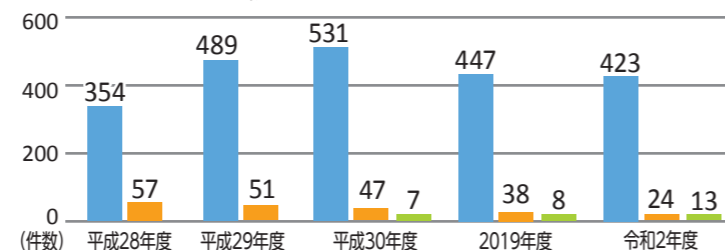
▲商談風景

参加企業 87社
面談 201面談

●広島県中小企業知財支援センター福山サテライト

中小企業のものづくり技術の向上及び競争力と経営基盤の強化に資するため、知的財産に精通したアドバイザーによる特許技術の商品化や既存技術の応用等に係る相談・指導を実施するとともに、当所独自の知的財産取得支援制度の活用を図った。

相談件数の推移



※補助金相談は平成30年度から開始

■ 知財相談件数

■ 弁理士相談件数

■ 補助金認定件数

●オンリーワン・ナンバーワン企業

当地域に多く存在する独自の技術や製品できらりと光る「ものづくり企業」の調査・発掘への取組の一環として、「オンリーワン・ナンバーワン企業」の新規募集と既存情報の更新を行うとともに、ホームページをリニューアルし「ものづくり企業」の認知度向上に努めた。

掲載企業数 オンリーワン 31社
ナンバーワン 59社

ホームページで紹介▶



●伝統産業の紹介

「福山琴」、「松永下駄」、「鞆保命酒」、「備後置表」、「備後絣」の5つの伝統産業について、当所ホームページに「福山の誇る伝統産業」のコーナーを開設。それぞれの伝統産業の成り立ちや歴史、商品の特徴について紹介し、販路拡大や情報発信を支援した。

当所ホームページの「福山の誇る伝統産業のコーナー」▶



中心市街地の賑わい創出と回遊性の向上

●福山駅前等歩道空間活用社会実験 OPEN STREET FUKUYAMA 2020 Vol.5

【開催日：令和2年10月17日・18日】

福山駅前再生の機運醸成のため、公共歩道空間で賑わい創出・回遊性向上を目的に開催。withコロナの観点から独自の開催基準を設け、「新しい日常下での、にぎわいづくりの社会実験」として感染対策を徹底し開催。回遊性を促すため、各エリアへ「花オブジェ」を設置し、歩道空間を彩る工夫をした結果、開放的な空間での飲食や買い物、散策を楽しむ来街者で両日も賑わった。



▲アイネスフクヤマ前の歩道の様子



▲各エリアで感染対策を喚起



▲オープンテラス



▲にぎわう夜の駅前

●ふくやま駅前マルシェ

【開催日：令和3年3月13日・14日】

コロナ禍による福山駅前等の人出の減少を上向きにすべく、駅前等の賑わい創出や回遊性の向上に寄与する取組の一環として、福山駅前釣り人像広場や旧CASP A前歩道空間を活用した「ふくやま駅前マルシェ」を開催。国家戦略特区に認定されたアイネスフクヤマ前歩道空間でのイベントとの相乗効果により、想定以上の賑わいが生み出された。



▲多くの人で賑わう旧CASP A前

令和2年度事業報告(概要版)⑥

●まちゼミ福山

【第14回令和2年9月26日～10月31日
第15回令和3年3月1日～3月31日】

専門店ならではの知識や情報、技やコツを受講者に無料で伝授する、得する街のゼミナール「まちゼミ福山」を開催。商店街の店主やスタッフが講師となり商品・サービスの特徴や取扱い方を説明することで、お店独自の考え方や商品に対する愛着を伝え、お店のファンづくりに取り組んだ。

参加店数： 23店
講座数： 24講座
受講者数： 196名



▲プロの技を学ぶ受講者



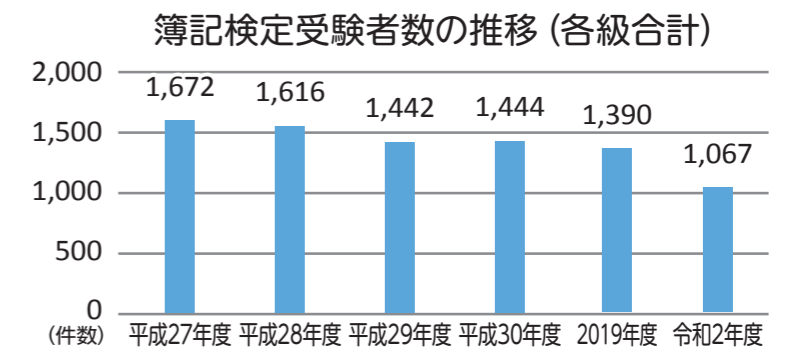
お酒について知識を深める受講者

人材育成

●日商簿記検定試験2・3級受験対策講座の開講

企業が求める資格第1位である日商簿記検定試験2・3級の受験対策講座を開講。受講者は高校生から社会人まで幅広く、年間で173名が受講。基礎知識の定着から過去問題の演習まで指導し、企業の人材育成と検定試験の普及・拡大に努めた。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症により第155回簿記検定試験は中止となり、年2回の開催となった。



●セミナー開催

従業員の資質向上のため各種セミナーを開催。新型コロナウイルス感染症の影響で、新入社員研修などが中止を余儀なくされたが、オンラインを取り入れるなど工夫し開催。また、従業員の働き方改革など、就業環境整備のための経営者向けセミナーも開催した。

【主なセミナーと受講者数】

・働き方改革企業経営者勉強会	45名
・管理者研修	48名
・若手社員研修	50名
・女性活躍推進セミナー	64名
・第54回福山青色学校	25名



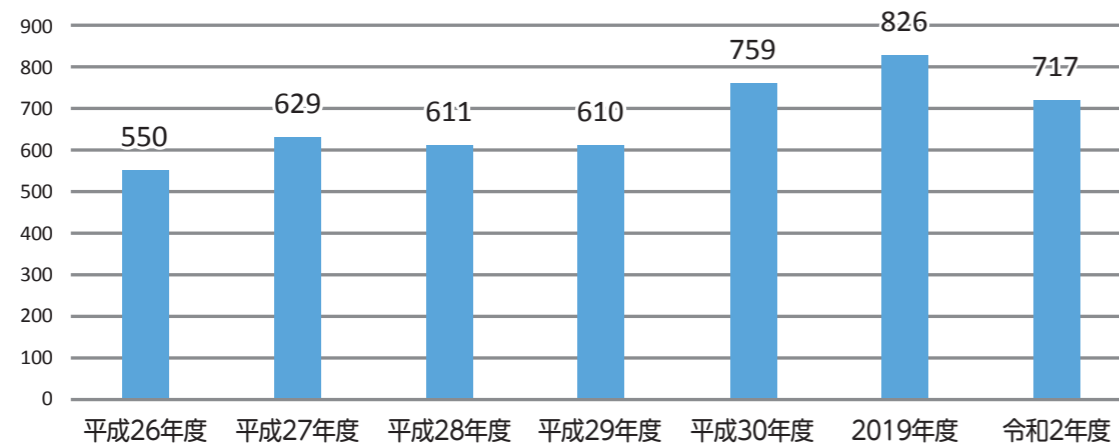
▲若手社員研修の一コマ

国際経済交流の推進と中小企業の海外ビジネス支援

●地域企業の海外取引等支援

非特惠原産地証明・サイン証明・インボイス証明の発給及び日本商工会議所福山事務所として、EPA(経済連携協定)に基づく特定原産地証明などの貿易関係証明の発給を通して、地域企業の海外取引等の支援を行った。全国的に発出された緊急事態宣言に伴い、窓口での交付を中止し、郵送での交付に切り替えるなど、申請事業所の安全に配慮し、発給業務を継続した。

EPA発給件数の推移



4. 地域資源を活用した都市力の向上

ワイン振興の取り組み

地域資源(「ばら」、「ぶどう」)を活用した地域活性化

ワインを核とした地域活性化を目指し、産学官民連携により設立した「備後福山ワイン振興協議会」の活動を通じて、これまでに商品化された赤ワイン「備後ワイン」などの販路開拓や新規参画事業者の育成・支援、備後福山産ワインの認知度向上、消費拡大等に取り組んだ。

また、2025年に福山で開催される「世界バラ会議」に向け、福山大学が研究を進めるバラ科酵母を活用した「新たな福山ワイン」の共同研究・開発に着手するとともに、福山近郊のワイナリーをめぐる「ワインdeバスツアー」を開催した。



◀山野峡ワイナリーのブドウ畑を見学



せらワイナリーで説明を聞く参加者

令和2年度事業報告〔概要版〕⑦

5. 当所組織運営基盤の強化と会員サービスの充実

●部会・委員会活動

11部会の正副部会長よりコロナ禍が業界に及ぼす影響をヒアリングし、経済行政懇談会の場で報告するなど、業界の動向に即した運営を行った。

また、委員会活動では、8常設委員会並びに4特別委員会等を適宜開催した。特に、経済政策委員会では「令和3年度税制改正」に対する意見集約を行うとともに、都市づくり委員会喜多村委員長と幹線道路・港湾整備特別委員会大山委員長が「福山道路等幹線道路網に関する公聴会」に経済界を代表して出席し、早期整備の必要性について意見陳述するなど、活発な活動を展開した。



◀小売商業・卸売商業正副部会長より
業界の状況を聴取



▶公聴会に出席し意見を
述べる喜多村委員長

●青年部

全国的に緊急事態宣言が発令されるなど、活動に制約の多い1年であったが、You Tubeでメッセージを発信したり、Zoomを活用した役員会、例会を開催するなど、新たな取り組みを行い、with コロナの中で活発な活動を展開した。



◀You Tubeでメッセージを
送る数田会長



▶Zoomを使い
例会を開催

●女性会

with コロナの中、状況に応じた活動を活発に展開した。

- ・例会において、福山市田中保健所所長を講師に感染防止対策の研修
- ・手づくりアロマ石けんの作製。寄贈
- ・親会、青年部との懇談会の開催
- ・全国大会への動画でのメッセージ発信



◀当所と当所青年部から、コロナ禍での活動のあり方について意見聴取を行った。



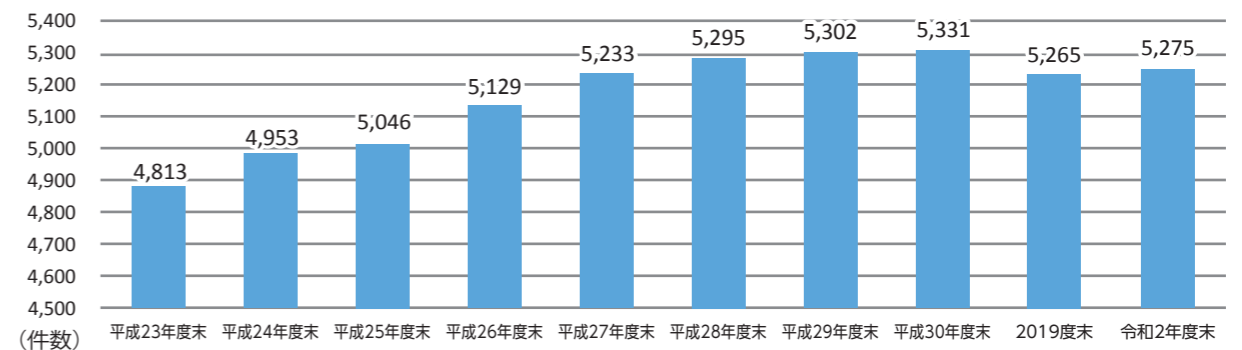
▶全女連倉敷総会に動画で
エールを送る。

会員数の推移

コロナ禍の影響により、会員増強運動の展開が困難な中、コロナ対策としての共済加入や経営相談等の事業所支援に伴う加入促進を積極的に推進し、会員数の維持に努めた。

【令和2年度末 5,275会員】

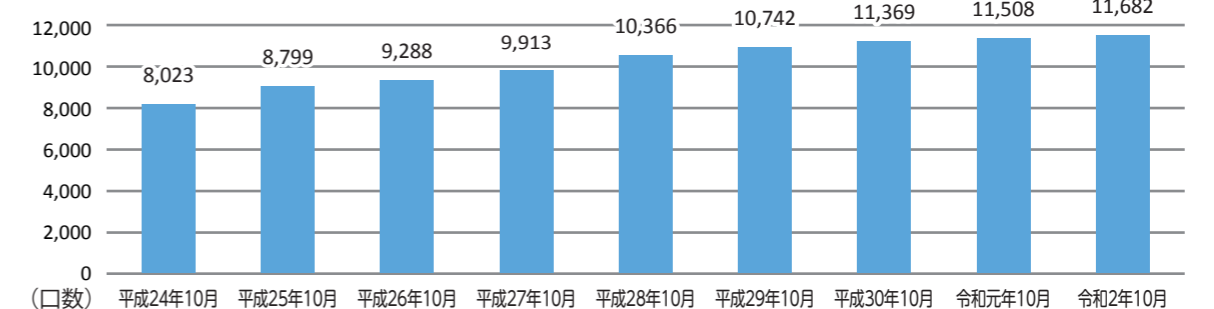
会員数の推移



共済制度「福の山共済」の推進

会員事業所の福利厚生充実、さらには当所財政基盤の強化を図るため、引受会社であるアクサ生命保険㈱と連携しながら加入促進活動を展開した結果、平成24年から9年連続の増加となった。

生命共済制度「福の山共済」加入人口数の推移



定例会見で新商品等を紹介

定例会見を会員事業所の新製品などのPRの場として提供し、販路開拓や提携先の募集など、マスコミを活用した情報発信を支援した。 【令和2年度発表件数 10件】



▲(株)福山健康舎



▲ウエスギ(株)



▲(株)和田製作所

令和2年度事業報告(概要版)⑧

会員サービス事業の実施

●会員交流会「新型コロナウイルス感染症対策グッズフェア」

【開催日：令和2年10月27日】

コロナ禍により展示会や商談会が中止・延期され、営業活動が制限される事業所や、感染症対策グッズの情報収集や入手ルートに課題を抱える企業も多いことから、感染防止と社会経済活動の両立環境の構築を図るため、最新の感染症対策製品や商品・サービスを一堂に集めた「新型コロナウイルス感染症対策グッズフェア」を開催した。

出展社数 32社
総出展品目 57品目
来場者数 133社 240名

▲出展者募集チラシ

▲全事業所の出展商品を掲載した冊子を来場者に配布

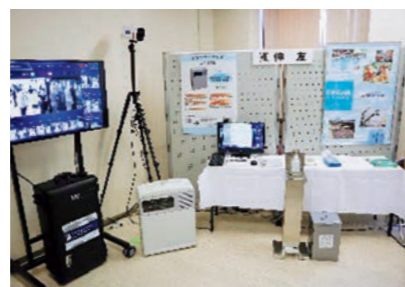
▲販路拡大を図るため展示商品は当所ホームページにも掲載



▲ブース展示①



▲ブース展示②



▲ブース展示③



▲商談風景

●創業永年会員・優良従業員表彰事業

【開催日：令和3年2月26日】

社会経済の変遷の中、会員事業所並びに従業員の永年にわたる精進と努力に敬意と感謝を表す表彰式を、新型コロナウイルス感染防止の観点から、議員全員協議会の中でコンパクトかつ簡潔に開催した。創業永年会員194社・優良従業員537名を表彰。

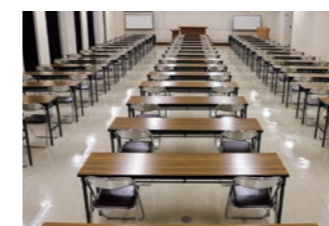


▲令和2年度代表受章者(正副会頭・専務理事と共に)

会議所ビルの運営・事務局のコロナ対策

建物及び設備機器の保守・整備や必要個所の補修を行い、照明器具のLED化に取り組むなど、環境にも配慮した運営を行った。また、コロナ禍においても、テナント入居者、貸室利用者、来館者への安心・安全に最大限配慮した対策をハード・ソフト両面から講じる中で、入居率、貸室利用率向上に努めた。

【入居数 45事業所・団体】



▲貸会議室の定員削減



▲貸会議室は毎回消毒



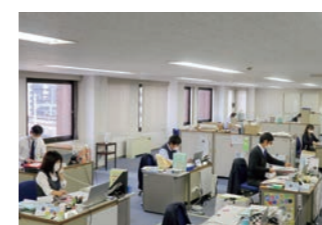
▲飛沫感染を防止



▲両側玄関に足踏み式消毒液を設置



▲相談者の安全安心に配慮



▲2階・8階で分散勤務



▲テナント向け勉強会開催



▲職員全員がeラーニングを修了